あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2024年6月
vol.13

新年度をむかえて
振り返りレポート／企画展「ヤジリの考古学」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「土器炊飯」他
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイルNo.12「朝日型長身鏃」
図書紹介／「大地の赤 ベンガラ異空間」他
学芸員がお答えするQ&Aコーナー
／円窓付土器は、なぜ穴が開いているの?
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介／「日本史のなかの愛知県」
古代体験プログラムのお知らせ
3月～5月のできごと
企画展「弥生人といきもの2024鳥に願いを」開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム

新年度をむかえて

本年4月から館長に就任しました。これまで学芸課長として、当ミュージアムの起ち上げから企画運営に携わってきましたが、改めてよろしくお願い申し上げます。

あいち朝日遺跡ミュージアムは、東海地方を代表する弥生時代の集落「朝日遺跡」の魅力を発信する施設として、2020年11月に開館しました。重要文化財に指定された出土品の展示だけでなく、古代体験プログラムなど、弥生時代を体験・体感する施設として多くの方に利用していただいています。今年3月にはオープンからの来館者が20万人を超え、節目となる5年目の活動に弾みを付けることができました。

今年度も「ヤジリの考古学」をはじめ4回の企画展、古代体験プログラムや米づくりを中心とした弥生ムラづくりプロジェクトなどの体験的な活動や季節ごとのイベントをとおして、朝日遺跡の魅力を発信していきたいと思います。また、貴重な出土品の保存修理、朝日遺跡や弥生文化に関わる調査研究と成果の公開など、博物館としての基礎的な活動も着実に進めてまいります。

関係者一同、みなさまの御来館を心よりお待ちしております。

あいち朝日遺跡ミュージアム館長
原田　幹

愛知県で学芸員として勤務するとともに、朝日遺跡をはじめとする弥生文化の研究、東アジアにおける農耕文化の研究に取り組んでいます。

1993年　財団法人愛知県埋蔵文化財センター調査研究員。
1997年　愛知県入庁。県文化財課、文化財保護室等で文化財の保護普及に携わる。
2020年　あいち朝日遺跡ミュージアム開館。学芸課長。
2024年　愛知県埋蔵文化財調査センター所長兼あいち朝日遺跡ミュージアム館長（兼学芸課長）に就任。

振り返りレポート

企画展 **ヤジリの考古学**

期間 2024年4月27日（土）～6月23日（日）
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

テーマ

今回の企画展では、狩りや戦いに用いられてきた弓矢に着目し、矢の先端に付けられた「ヤジリ（鏃）」を取り上げました。朝日遺跡からは多数の石鏃（石のヤジリ）が出土しています。手の平に乗る小さな石器には、細かな加工が施され、その端正なデザインには土器とは違った魅力があります。ヤジリは石だけでなく、木、骨角、金属など様々な材質で作られてきました。また、朝日遺跡では矢を射出する弓も出土しています。

展示資料

本企画展では、本館が所蔵する朝日遺跡のヤジリ資料及び愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）が所蔵する縄文時代から戦国時代までの主なヤジリに関する資料を展示し、その変遷、技術を紹介しました。また、ヤジリや弓について知るための参考資料として、南山大学の調査団がパプアニューギニアで収集した弓矢に関する民族資料も展示しました。

企画展開催風景

ヤジリの出現

石鏃は日本列島が温暖化し森林が発達した縄文時代初期に出現したと考えられています。展示では、瀬戸市八王子遺跡の縄文時代草創期の打製石鏃の他、同時期に用いられた木葉形尖頭器、有舌尖頭器を紹介しました。

弥生時代のヤジリ

弥生時代の資料は、重要文化財に指定されている朝日遺跡出土資料を中心に、打製石鏃、磨製石鏃、木鏃、骨鏃、銅鏃、鉄鏃（朝日遺跡からは出土していない。展示品は新城市吉竹遺跡出土品。）など様々な材質のヤジリが並びました。こうしてみると、弥生時代は最も多様なヤジリが用いられた時代と言えるかもしれません。そして、弥生時代は、狩猟具から戦闘用にと、弓矢の役割が大きく変質していったことが指摘されています。東海地方を中心に出土し「朝日

型長身鏃」と呼ばれている大型の石鏃も武器としての石鏃を語るうえで注目される資料です。

また、朝日遺跡の出土品からは、シカの骨に刺さった状態で出土した石鏃、墓坑とみられる遺構からまとまって出土し人に射ち込まれた可能性がある打製石鏃、孔をあける作業に用いられたとみられる石錐（せきすい）に転用された石鏃など、ヤジリがどのように使われたのか考えるうえで興味深い資料を紹介しました。

古墳時代以降のヤジリ

新しい時代では、古墳時代から古代の東海市松崎（まつざき）遺跡の鉄鏃と骨鏃、戦国時代の清須市清洲城下町（きよすじょうかまち）遺跡の鉄鏃を取り上げました。最後に、戦国時代に日本に伝えられ飛び道具の歴史を大きく変えた鉄砲に触れ、新城市石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡から出土した火縄銃の弾を紹介しました。

謝辞

数センチほどの小さな資料が並ぶ本展示は、これまでの企画展とは少し趣が異なっていたかもしれませんが、小さなヤジリから歴史の断面を垣間見ることができたなら幸いです。

最後に本企画展の開催にあたり、ご協力いただきました所蔵機関をはじめ、関係者、関係機関に厚くお礼を申し上げます。

（原田　幹）

朝日遺跡のヤジリ

企画展ポスター

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田をとおして、弥生時代を体験する「弥生ムラづくりプロジェクト」。
この春は、復元した木製農具で田起こしを行い、田植えの準備を始めました。

土器炊飯

2024年3月2日(土)

「体験!弥生ムラ」のイベントとして、「土器炊飯（土器どき!弥生ごはん）」を実施しました。今回使用するお米の違いについて話を聞いた後、火起こし器で火を起こすところから参加者に体験してもらい、炊飯を行いました。 炊き上がった赤米やあいちのかおりなど数種類のお米を実際に試食し、弥生時代の炊飯方法について学ぶことができました。

環境整備

2024年4月27日(土)・5月25日(土)

ミュージアムでは、弥生時代の生活を体験するさまざまなワークショップを計画・実施しています。住居、倉庫、水田などの生活空間を復元し、本格的な体験を行う場所「体験弥生ムラ」の整備もそのひとつです。この日は、ボランティアスタッフとともに体験水田の草取りを行いました。ここから1年かけて、米作りが始まります。美味しいお米ができますように…。

田起こし体験

2024年5月4日(土・祝)

田起こしでは、朝日遺跡で出土品から復元した木製農具を使用します。

田起こしをすることにより土が空気をたくさん含み、稲を植えた時に稲の成長が良くなります。土を起こすという単純な作業ですが、とても大切な作業の1つです。今年も、木製農具と鉄製農具を使い分け、稲がどのように成長するかの実験を行います。

シリーズ　ミュージアム収蔵品ファイル No.12

打製石鏃―朝日型長身鏃―

打製石鏃（朝日型長身鏃）:朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）

朝日遺跡で出土した石器のなかで、もっとも数が多いのは石鏃です。とくに代表的な打製石鏃206点、磨製石鏃13点が重要文化財に指定されています。

石鏃は矢の先端に付けられ、弓により射出することで、対象に刺さる部分です。狩猟具として、また武器として長く使われてきた道具の一つです。稲作農耕が普及していった弥生時代になると、石鏃が大型化する傾向が指摘されてきました。佐原真は、弥生時代中期の近畿地方で石鏃の大型化が進行したことを指摘し、軽く小さな石鏃から長く重い石鏃へ、弓矢が狩猟具から戦闘用の武器へと変質していったと説きました。朝日遺跡の石鏃にもこの傾向をうかがうことができ、長さ3cmを超える長大な石鏃が見られるようになります。朝日遺跡で最大の石鏃は、長さ7cmにも達する大きなものです。

東海地方では、先端に段をもち身の平面が五角形を呈する有茎の打製石鏃が作られていました。なかでも、長さが3cmを超える大きなものは、朝日遺跡の名を冠し、「朝日型長身鏃」と呼ばれています。右上の写真は代表的な朝日型長身鏃で、左は下呂石（げろいし）、中央はチャート、右上2点は近畿地方のサヌカイト、右下は朝日遺跡では珍しい黒曜石で作られています。朝日遺跡では、遠方から入手した貴重な石材を用いて、この地域の特徴的な形の石鏃を作っていたことがわかります。

さて、これら打製石鏃の他にも、磨いて作られた磨製石鏃、木、骨や角、銅など様々な材質で作られたヤジリが用いられていました。なかには、材質をこえて、その形を模倣したとみられるものがあります。左下の写真は朝日遺跡出土の骨鏃ですが、その形は写真右の朝日型長身鏃にそっくりな形をしています。平面的な形ばかりでなく、先端部から身中程までの外縁に鋸歯状（きょしじょう）のギザギザが施されているのも、打製石鏃の剥離（はくり）を意識した加工といえるでしょう。

打製石鏃は、朝日遺跡の代表的な出土資料であるとともに、弥生時代の社会の変化やものづくりと地域との関わり方を知るうえでも貴重な資料です。

（原田　幹）

骨鏃と石鏃:朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）

弓矢による狩り（クローズアップ模型「山・森での活動」）

図書紹介

当ミュージアムの蔵書は、あいち朝日遺跡ミュージアムの前身である“清洲貝殻山貝塚資料館”の頃から集められた図書です。その数約8,500冊！一般書店では手に入らない調査報告書や全国の博物館で刊行された図録など見どころが満載です。
そんな自慢の蔵書からスタッフおすすめの図書を2冊紹介します。

『大地の赤　ベンガラ異空間』　INAXライブミュージアム　2015年4月発行

当ミュージアムでは「朝日遺跡出土のパレススタイル土器の赤色は何ですか？」という質問に、「ベンガラという酸化鉄が主成分の顔料です。」とお答えしています。“ベンガラ=酸化鉄=鉄の赤錆”という説明だけでは満足できない！もっと詳しく知りたい！という方には、ぜひこの本をおすすめします。

この本では、ベンガラが歴史、言葉の由来、芸術、化学など様々な角度から紹介されています。なかなか知る機会のないベンガラの製造工程も書かれていて、ベンガラの赤に深く好奇心をそそられる一冊です。

『もしも猫展』図録　名古屋市博物館編　2022年7月発行

この図録は、コンパクトなサイズと319ページというボリューム感、まるで三毛猫がいるのではないかと思わせるような可愛らしい表紙の本です。

「もしも猫が人であったなら。人が猫であったなら。」そんな想像を膨らませた浮世絵師歌川国芳の作品と江戸時代から明治時代にかけての愉快な擬人化作品がたくさん紹介されています。この本を読めば、現代の猫ブームをはるかにしのぐのではないかと感じる、江戸時代の人々の猫好き具合が垣間見えると思います。猫好きの方はもちろん、そうでない方も、ぜひお手に取ってみてください。癒される一冊です。

学芸員がお答えする Q&A コーナー

ミュージアムでいただくご質問の中から、たくさんの方の「気になる」に学芸員がお答えします。

Q 円窓付土器は、なぜ穴が開いているの？

A 円窓付土器は愛知県の尾張地方、中でも朝日遺跡でその大半が出土しています。「正統派」といわれるものは、①高さ30㎝前後で、②胴部の上半部に焼成前に穿孔した径10㎝前後の円形の窓部を設けている、③胴部には文様を施さない、という特色をもっています。

また、三河地域をはじめとして、各地域の拠点集落では、円窓式土器を模倣したとみられる土器が出土することがあります。それらは、焼成後に穿孔したものであったり、胴部に文様が施されていたり、正統派とよばれる一群とは異なる特徴を持っています。

円窓付土器の穴の用途はまだわかっていません。円窓付土器は、生活空間から離れた墓域や、居住域と墓域との境界から出土することが多いことから、儀礼的な性格をもった土器だったのではないかと考えられています。しかし、各地域の拠点集落でみられるような円窓付土器は、土器の模倣もさることながら、その用途にも違いがあったかもしれませんね。

諸説ある用途の中で最近面白いと思ったのは、草木の葉や木くずなどをいぶしたり香を焚いたりして煙で蚊をよせつけないようにする「蚊遣り」説です。私は蚊にさされやすく、夏場の外出時には蚊よけのスプレーが必須なのですが、これがあれば私も弥生時代に生きていける。その他にも、ミュージアム横の体験水田では、「豊作を導く水」を円窓付土器から出しています。太陽のもと、土器の円窓から水が出ている風景には、とても癒されます。そして最後に、最近ミュージアムで販売されるようになった円窓キャンドルスタンド。これは今までにみてきたミュージアムグッズの中でも個人的大ヒットです。当館にご来館いただき、円窓のある生活を楽しんでいただけますと幸いです。

（松本　彩）

連載(シリーズ13)

ミュージアムスタッフのこぼれ話

ミュージアムのもうひとつの魅力

館長の原田です。私がミュージアムでいつも気にかけているものの一つに体験水田があります。とくに春から秋にかけて耕作を行っている間は、イネが順調に育っているか、水はすべての区画に過不足なく行き渡っているか、雑草や害虫による害はないかなど、心配がつきることはありません。実際過去には、苗がほとんど育たなかったり、田植えをしたばかりのイネがスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)にほとんど食べられてしまったりと、何度も危機的な状況にも出くわしました。二千年前の弥生人も様々な苦難を乗り越え、現在まで稲作が受け継がれてきたと思うと感慨深いものがあります。

一方、水田には様々な癒やしや魅力があります。水を湛えたほ場や畦には、カモやシラサギ、トンボやカエルなど、いろいろないきものがやって来ます。初めは頼りなかった小さなイネがたくましく生長していく様子、春・夏・秋と移りゆく季節と景色など、小さな体験水田にもたくさんの見所があります。

水田の端にたたずんでいる職員がいたら、それは仕事をさぼってぼんやりしているわけではなく、稲の育ち具合や水の回し方、次の作業の段取りなどをあれこれ考えている館長かもしれません。

(原田　幹)

田植え後のイネ

水田のいきもの

ショップグッズ蘊蓄(うんちく)紹介

「日本史のなかの愛知県」

梅本博志編

今回紹介する本は、高校の日本史、世界史の教科書で有名な山川出版社の県別シリーズとして、埼玉県、神奈川県に続く第3巻として2024年5月に刊行されたものです。旧石器時代に始まる東西日本の境界域としての立ち位置、信長、秀吉、家康を輩出した戦国時代の豊かな生産力、そして中京圏として経済的な存在感を示す近現代までの歴史とともに、国や市町村指定の文化財も多く取り上げ、もちろん朝日遺跡も巻頭口絵に掲載されています。B6変形判、192頁という手ごろな大きさで、図版、写真も多く、通勤時や就寝前の読書にもピッタリかと。

当館の学芸スタッフが編集を担当し、執筆にはガイドボランティアの方も参加されています。館長の原田幹著『東西文化の結節点　朝日遺跡』(シリーズ「遺跡を学ぶ088」新泉社2013年刊　当館ショップでも販売中)と併せて読んでいただければ、「日本史のなかの朝日遺跡」の存在をより鮮明に理解していただけると思います。

山川出版社
¥1,980(税込)

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝開催　会場:本館・体験学習室

7月

教材費 450円　各回先着 10人　時間 15:00~(60分)

高坏づくり

作った高坏はナイトミュージアムでライトアップされます。

作例

8月

教材費 150円　各回先着 10人　時間 15:00~(45分)

バードコールづくり

企画展に合わせて、鳥のさえずりに似た音を出す道具をつくります。

作例

9月

教材費 50円　各回先着 10人　時間 15:00~(60分)

鹿角で釣針づくり

やすりで鹿の角を加工し、釣針をつくります。

作例

※2024年7月6日(土)から9月29日(日)までの土・日・祝日に開催(各1回)　※当日ミュージアム本館窓口にてお申込みください。(事前予約はできません)

3月～5月のできごと

イベント

「体験！弥生ムラ」

●日時：2024年3月2日（土）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：体験水田で収穫した米を復元した土器で炊飯する「土器どき！弥生ごはん」や、2023年度に開催した「古代体験プログラム」の中で特に人気だった「ミニチュア石包丁づくり」「鹿角で釣針づくり」などのイベントを実施しました。中でも、様々な石が入ったコンテナの中から黒曜石を探す「玉石混交！黒曜石さがしゲーム」は好評で多くのお客様が楽しまれていました。

「清須プロギング」

●日時：2024年3月24日（日）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）、多目的広場等
●内容：清須市民参加型の清掃活動として、プロギング（ランニングしながらゴミ拾い）を開催しました。3月23日（土）の予定が大雨のため延期となり、翌24日（日）に小雨の降る中での開催となりましたが、多くの方にご参加いただきました。

「来館者数20万人達成セレモニー」

●日時：2024年3月31日（日）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
復元高床倉庫付近
●内容：あいち朝日遺跡ミュージアム開館から20万人のお客様にご来館いただいたことへの記念式典を行いました。記念すべき20万人目のお客様は、名古屋市からお越しのご家族で、この日は火起こし体験も行い、ミュージアムを満喫していただきました。

「弥生こどもの日」

●日時：2024年5月4日（土・祝）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：復元した鍬や鋤を使って、弥生時代の田起こしを体験する「田起こし体験」や、朝日遺跡で出土した本物の弥生土器の拓本をとって土器カードを作る「おしごと体験！拓本づくり」や、「弥生こども紙芝居」など、大人も子どもも、楽しく弥生時代を体感できるイベントを実施しました。

講座

「お菓子づくりで楽しむ朝日遺跡」

●講師：渡辺康子氏（御菓子処わたなべ）
●日時：2024年3月10日（日）午後1時30分から午後3時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：朝日遺跡の出土品の「勾玉」や、当館マスコットキャラクターである「アカ」をテーマに「ねりきり」を作りました。

「岩石名の付け方講座」

●講師：堀木真美子氏（愛知県埋蔵文化財センター主任専門員）
●日時：2024年5月26日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：朝日遺跡などの弥生時代の遺跡から出土する「石」について、岩石名を決めるポイントを説明しました。さらに、ヤジリに用いられる「黒色で緻密な組織をもつ岩石」の識別方法を解説し、実際に石材同定を行いました。

講演会

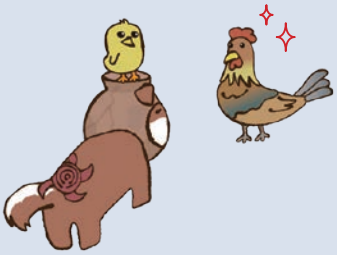
「石器に残る痕跡から人の行動を探る」

●講師：御堂島正氏（大正大学名誉教授・特遇教授）
●日時：2024年5月12日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：石器の表面には、線状のキズや摩耗など様々な痕跡が残っています。これらの痕跡から、石器の製作・使用・廃棄などに関わる多様な情報を得ることができます。今回、石器の痕跡分析の方法と分析例を紹介しました。

企画展「弥生人といきもの2024　鳥に願いを」開催のお知らせ

会期：2024年7月20日（土）～9月16日（月・祝）

弥生人といきものの関係を紹介する、夏の子供向け展示の第4弾。今回は鳥がテーマです。弥生時代の日本では鳥は信仰の対象であり、各地の遺跡から鳥の形をした祭祀具が出土しています。ニワトリもこの頃に大陸からもたらされ、時を告げる鳥として珍重されました。霊的な存在でありながら身近な存在でもある、そんな鳥と人との長いおつきあいをご紹介します。



企画展チラシ

朝日遺跡だより vol.13
令和6年6月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

区分	一般	大学生・高校生（学生証のご提示が必要です）
個人	300円	200円
団体（有料20名以上）	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL／052-409-1467
- 開館時間／9：30～17：00
- 駐車場／15台
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）及び年末年始（12/28～1/3）

戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから清洲城まで徒歩約10分

入館料

【大人】350円
【小人】150円（小中学生）※幼児無料

- 愛知県清須市朝日城屋敷1－1
- TEL／052-409-7330
- 開館時間／9：00～16：30
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット
2施設で計650円を 550円 発券より半年間有効

古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料

【一般】200円
※中学生以下無料

- 名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- TEL／052-739-0520
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を 400円 発券より半年間有効

大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

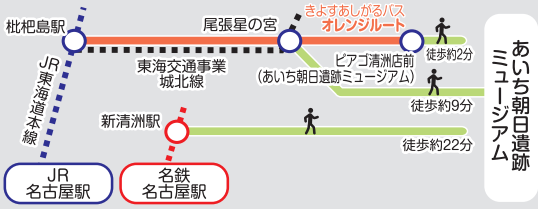
共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

https://aichi-asahi.jp/ SNSもご覧ください

あなたに夢を、街に元気を。 クーちゃん宝くじ